

## 体験談作文

ゲブル・マヤ・リナ (フランス・パリディドロ第七大学)



東京に来てもう 10 ヶ月がたちました。短い期間に思われますが、素晴らしい人々に会う機会がたくさんあって、自分の成長にいい影響をたくさん受けたと感じていて、もっといい人になったと思って、喜んでます。毎日寮と大学で会っている同じ人々は家族のように親しくなり、時々家族が二つあるように感じています。そして、この東京での小さい家族の一員として、生活はもっと快適で楽しくなりました。



隅田川の夜桜、2017年4月

日本に来た理由は日本の文化に興味があるからです。そして、体験やチャレンジをしたかったからです。これらの理由を二つ考えながら、東京に来ました。しかし、私が前に持っていた期待と比べると、もっと多くの体験ができました。日本語のレベルだけでなく、日本の日常生活や社会的なたくさんのことが分かってきました。日本の文化や社会などについて子供のころから興味がありましたが、大人になった今、楽しいことに、自分でようやく調べることができました。

今年、修士二年生になるため、大事な論文を書かなければなりません。最初は少し大変だと思っていたが、知らず知らずのうちに、他の日本人の違うイメージも論文に取り入れることができました。戻れるものなら、必ず同じチャンスをもう一度取りたいと思っています。

もちろん、お茶の水大学の先生方を忘れません。お茶大では人間関係が大切にされています。先生方は優しいし、指導教員はたくさん手伝っていただきました。

夏休みが始まったら、もうすぐ「さようなら」と言う時になります。きっと一生この一年間の日本での生活のこと一日も忘れる日はないでしょう。



今後、残っている時間を好きな人々と過ごすことを私は楽しみにしています。それでも悲しいとは感じられません。フランスでは大切な人々もいますから。しかし、決して普通の生活に戻るわけではありません。他の新しいルールで人生を続けるつもりです。

本日は皆さんに感謝いたします。皆さん 誠にありがとうございました。

以上

江ノ島の花火大会、2016年10月